



奄美の海岸植物図鑑

Coastal plants on Amami Islands

鈴木英治（鹿児島大学）

2017年

Eizi Suzuki, Kagoshima University

はじめに

- この図鑑は、奄美群島で見られる主な海岸植物75種を紹介したものです。
- 植物の基本的な形で次のA～Hに分けてあります。
(青い文字をクリックすると、そのページに移動します。)
分からない言葉は次ページの[用語の説明](#)1～2を見てください。

	タイプ		番号
草	A ツル植物 (キク科以外)		1～
	ツ ル で な い	B 双子葉 (キク科以外)	9～
		C 双子葉 (キク科)	18～
		D 単子葉	29～
木	E 砂浜・崖の低木		44～
	F 海岸林の木1 (針葉・複葉・単葉対生)		52～
	G 海岸林の木2 (単葉互生)		61～
	H マングローブ林の木		72～

- [和名順](#)の種名リスト 89ページ
- [土盛海岸の観察会ルート](#) 92ページ
- [あとがき](#) 93ページ

用語の説明1

植物の形(中間的な植物もある)

ツル植物: 自分で直立できない細長い茎を持った植物

草: 硬い茎を持たない植物。

木: 硬い茎を持ち大きくなる植物

(低木: 高さ2~3m、せいぜい5mにしかない木)

植物の系統

裸子植物(ソテツ、針葉樹など)



被子植物

— 単子葉植物 イネ科・ユリ科・ヤシ科・ラン科など
細長い葉の植物が多い。
ヤシ科、タコノキ科、竹以外は草

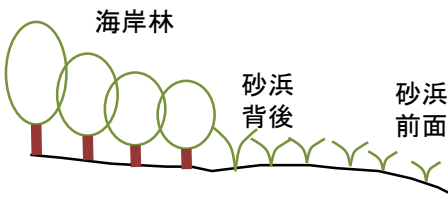
— 双子葉植物(原始的被子植物+真双子葉植物)
広葉の植物が多い、木と草、ツル、
1つの科 キク科

特徴: 小さな花の集まりの頭状花序を作る。

1枚の花弁に見えるものが1つの花



生息場所



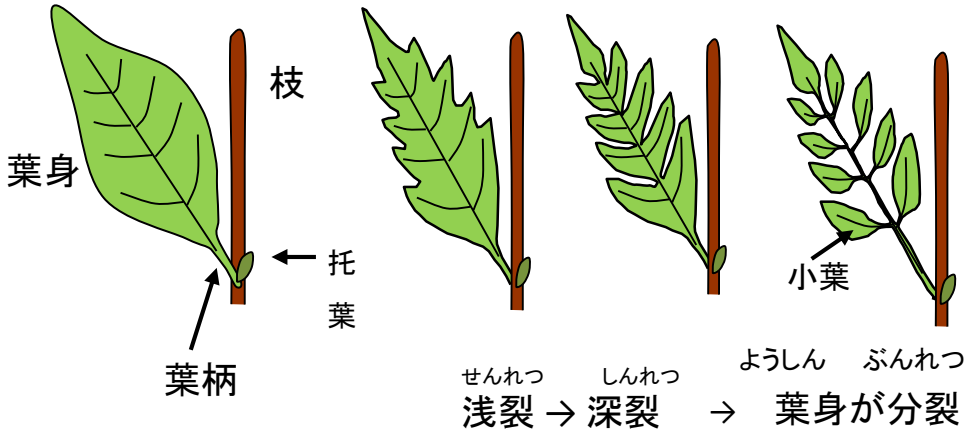
海

隆起サンゴ礁: かつて海水中あったサンゴの石灰岩
崖: 海に面した急斜面。

用語の説明2

たんよう ようしん
単葉 : 葉身が1枚

ふくよう
複葉



ぜんえん
全縁
縁にギザギザがない

きょえん
鋸歯縁
縁がギザギザ

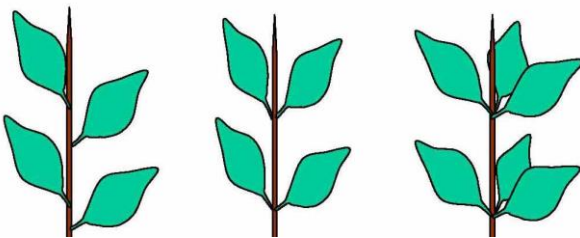
分れた葉身の一つを小葉という
三出複葉: 3小葉だけの複葉

枝に対する葉のつき方

互生

対生

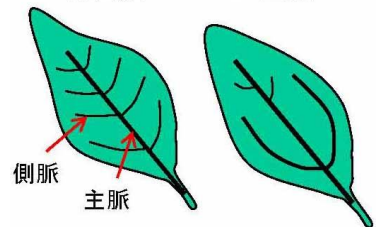
輪生



葉脈

羽状脈

三主脈



Aツル植物

[はじめに戻る](#)

種名	形	主な特徴
1ゲンバイ ヒルガオ		アサガオ型の花。長さ5-10cmの軍配型の葉。奄美に多い
2ハマ ヒルガオ		アサガオ型の花。長さ3-5cmの丸い葉。奄美に少ない。
3スナヅル		緑～オレンジの茎が地面をはい、他の植物に寄生。茎の太さ2-3mm 硬い茎、奄美に多い
4アメリカネ ナシカズラ		緑～オレンジの茎が地面をはい、他の植物に寄生。茎の太さ約1mm 柔らかい茎、まれ
5ハマ アズキ		三出複葉。複葉全体が長さ約10cm。黄色い花。多い
6ハマ ナタマメ		三出複葉。ピンク色の花。比較的少ない。
7シロバナ ミヤコグサ		三出複葉。複葉全体が長さ約1-3cm。株全体が、長さ1mほどまでしか伸びない。小葉が細い。白い花。
8ミツバノ コマツナギ		三出複葉。複葉全体が長さ約1-3cm。長さ1mほどまでしか伸びない。小葉が丸い。ピンクの花

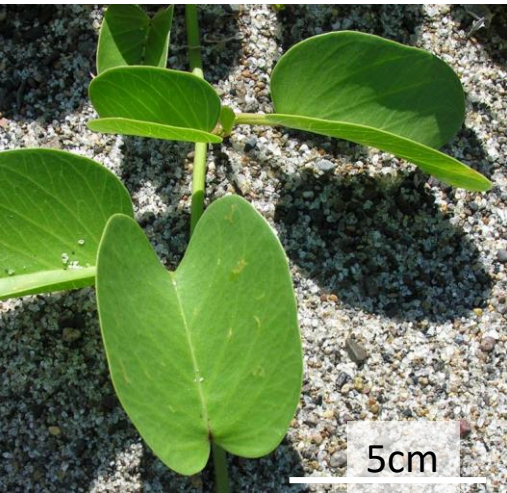
1 グンバイヒルガオ

初めに

ツル

和名順

Ipomoea pes-caprae (ヒルガオ科)
地方名: アメフリバナ、ハマカズラ



特徴: 葉は長さ5-10cmで、基部と先端がくぼみ相撲の行司が使う軍配の形をしている。花は紫色でアサガオの様な形をしている。茎は地上ををうが、後に砂が溜まると埋もれる。

生息地: 砂浜前面

分布: 海流で種子が散布され、九州南部から赤道まで砂浜に分布し、奄美の海岸に多い。

2 ハマヒルガオ

初めに

ツル

和名順

Calystegia soldanella (ヒルガオ科)



特徴: 長さ3cm前後の丸い葉をつける。寒い地方に生育するので、茎は地中をほう地下茎になっている。

生息地: 砂浜前面(時に、人家周辺)

分布: 国内では北海道～沖縄。下の写真のように寒い地方で生育がよいが、奄美ではあまり大きくならない。



Cassytha filiformis (クスノキ科)



特徴: クスノキ科の樹木の仲間だが、葉を持たず茎だけが伸び、他の植物に吸盤状の組織で付着し養分をえる寄生植物。

生息地: 砂浜前面～背後

分布: 大隅半島～沖縄に分布し、奄美の海岸に多い。



4アメリカネナシカズラ

初めに

ツル

和名順

Cuscuta campestris (ヒルガオ 科)



特徴: スナヅルに似ているが、ヒルガオ科で茎がずっと細く、柔らかい。

生息地: 砂浜、畑、草地

分布: 北アメリカ原産の帰化植物。1970年代に東京に侵入。全国に分布を拡大し、最近奄美大島にも侵入したようで、まれに海岸で見られる。

5 ハマアズキ

初めに

ツル

和名順

Vigna marina (マメ科) *marina*=海の意味



特徴: 3出複葉のツル植物で黄色い花が咲く。茎はほぼ無毛。**生息地:** 砂浜
分布: 熱帯から宮崎県まで分布。奄美に多い。



竜骨弁を取りオシベとメシベを露出させた

一部のマメ科の花は、3タイプの花びらを持ち、下の竜骨弁の中にオシベとメシベがある。虫が止まると、竜骨弁が下がり、虫の腹に花粉が付く。

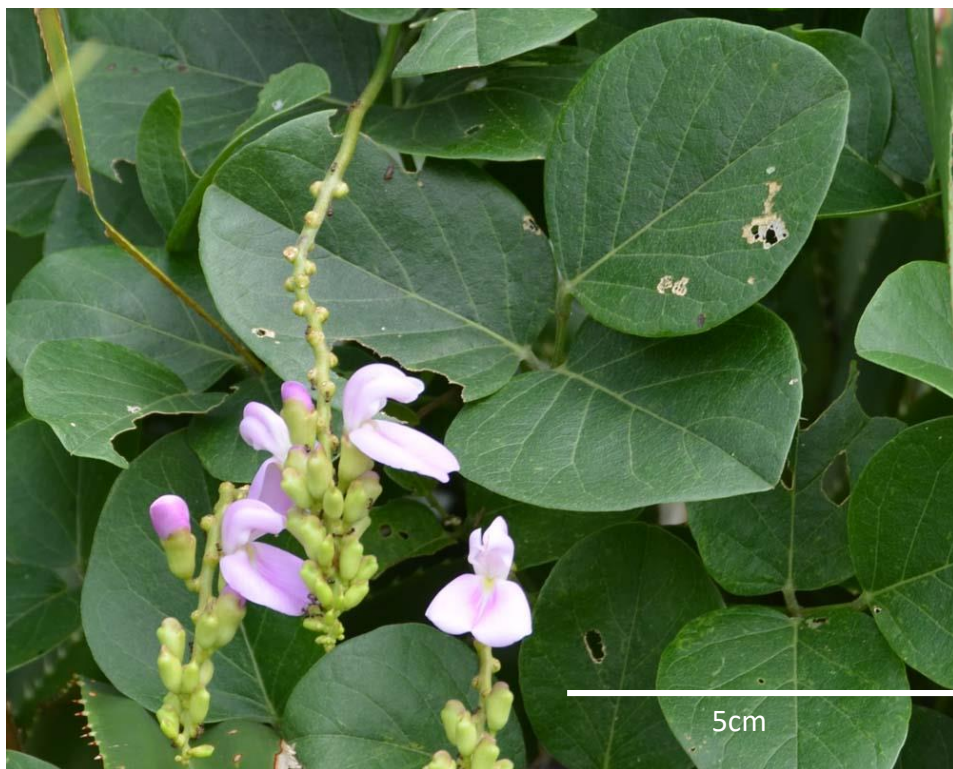
6 ハマナタマメ

初めに

ツル

和名順

Canavalia lineata (マメ科)



竜骨弁

特徴: 三出複葉のツル植物、ハマアズキと葉の形、生息地が似ているが、花はピンク色。若い茎に毛がある。

生息地: 砂浜

分布: 本州～台湾中国。本種の方が奄美では比較的少ない。

旗弁

花をつける枝は必ず垂れるので、花が逆さになり、竜骨弁が上、旗弁が下になる。結果的に、蜜を吸いに来た虫の背中に花粉がつく。



竜骨弁の中のおしべとめしべ

7 シロバナミヤコグサ

初めに

ツル

和名順

Lotus australis (マメ科)



特徴: 小さなツル性の草。春に開花する。葉は長さ1-2cmで、厚い。

生息地: 砂浜前面、隆起サンゴ礁上

分布: トカラ列島宝島が北限。

その他: 内陸には黄色い花のミヤコグサがある。



ミヤコグサ *Lotus corniculatus*

8 ミツバナコマツナギ

初めに

ツル

和名順

Indigofera trifoliata (マメ科)







特徴: シロバナノミヤコグサと同じような環境に生える。葉の大きさも同じくらいだが、小葉がシロバナミヤコグサより丸いので、花がなくても区別できる。赤い花は葉の下に咲き目立たない。
生息地: 砂浜前面、隆起サンゴ礁上
分布: 奄美大島以外の奄美群島～台湾・中国。



同属に羽状複葉のコマツナギという植物があり、それに似ているが3つの羽片しかないので三つ葉のコマツナギとなった。コマツナギは馬もつなげるほど茎が上部という意味。

B双子葉(キク科以外)

[はじめに戻る](#)

種名	形	主な特徴
9コマツヨイ グサ		葉は長さ5-10で細長い。夜に黄色い花が咲き、昼はしおれてオレンジ色になっている。
10ナンゴクボ タンボウフウ		大きな2-3回羽状複葉の葉で、白っぽく光沢がない。縁には鋸歯がない。
11ハマウド		大きな2-3回羽状複葉の葉で、濃い緑で光沢があり、縁には細鋸歯がある。
12ツルナ		長さ10cmほどで厚く3角形をした葉。葉の付け根に黄色い花が咲く。
13カワラ アカザ		1年草で砂浜の裸地に直立して生育。葉は厚く楕円形。
14ハマ タイゲキ		ちぎると白汁が出る。砂浜に付着するように伸びる。
15イワ タイゲキ		ちぎると白汁が出る。岩場に生育し茎が直立し高さ50cmほどまで伸びる。
16ショウジョ ウソウ		ちぎると白汁が出る。海岸林や道端に生育。花の周りが赤い。
17イソマツ		隆起サンゴ礁の上に生える。高さ10cmほどの小さな多年草。

Oenothera laciniata (アカバナ科)



特徴: 葉の縁が切れ込む。待宵草は月見草とも呼ばれるように、夕方から咲き始め朝にはしおれるで、昼間開花していない。赤い花は前日のしおれた花。花の後は細長い実ができる。

生息地: 砂浜や道端に普通。

分布: 北アメリカ原産の帰化植物で、日本では関東～沖縄



↑実

10ナンゴクボタンボウフウ

初めに

双子葉

和名順

Peucedanum japonicum (セリ科)



特徴: 1～3回羽状複葉の大きく、少し白みを帯び、光沢がない葉をつける。高さ1.5mほどにまで伸びる。葉がボタン(牡丹)に似ており、セリ科の防風(ボウフウ)似るボタンボウフウという植物があり、その近縁種で南に分布する種。花は、セリ科の特徴として、小さな白い花がたくさん集まって咲く(散形序か複散形花序)。

生息地: 砂浜

分布: ボタンボウフウは本州以南、本種トカラ列島以南に分布する。



葉がボタン(牡丹)に似ている

ボタン(鹿児島市で栽培) 16

11ハマウド

初めに

双子葉

和名順

Angelica japonica (セリ科)



複散形花序になっている花



種子



特徴: 葉に光沢があり濃い緑。ボタンボウフウと比べると、緑色が濃く光沢があり、葉の縁に細かな鋸歯があることで区別できる。

生息地: 砂浜や海岸近くの道端

分布: 関東～台湾

葉の縁の鋸歯



12ツルナ

初めに

双子葉

和名順

Tetragonia tetragonioides (ツルナ科)



特徴: 長さ10cmほどで厚く3角形をした葉。葉の付け根に黄色い花が咲く。ツルナはツル状に伸びる菜の意味だが、葉は、お浸しなどにして食べて美味しく、栽培されることもある。長さ約1cmの果実は硬く、海流で散布される。

生息地: 砂浜背後

分布: 北海道～沖縄。

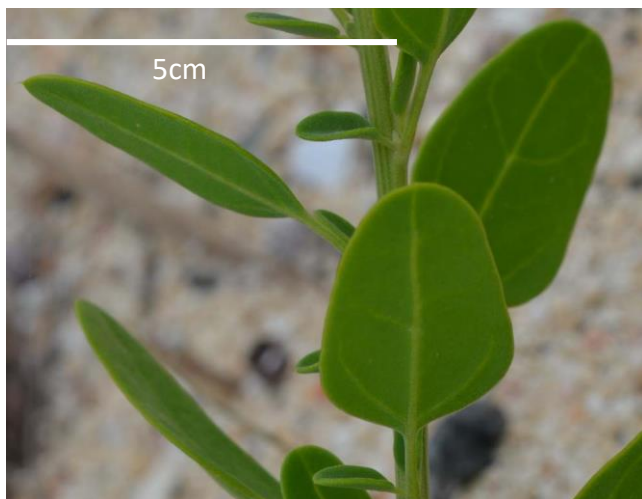
13カワラアカザ

初めに

双子葉

和名順

Chenopodium acuminatum var. *vachelii* (ヒユ科 旧アカザ科)



特徴: 砂浜に生える1年草。
葉は厚く単葉で互生。畑の
雑草で近縁種のアカザがあ
るが、葉は薄い。
生息地: 海岸や河原の裸地。
分布: 本州から沖縄



果実

14ハマタイゲキ

初めに

双子葉

和名順

別名スナジタイゲキ スナタイゲキ *Euphorbia atoto* (トウダイグサ科)



特徴: 砂浜に伏したように生える多年草で根は長い。葉は単葉で対生。ちぎると白い汁が出る。

生息地: 砂浜前面

分布: 種子島～マレーシア

その他: 畑雑草のトウダイグサや園芸品のポインセチアが近縁



Euphorbia jolkinii (トウダイグサ科)



特徴: 茎は直立し高さ50cmほどになる。ちぎると白い汁が出る。春に開花。ポインセチアの仲間、多年草だが夏から秋には地上部が枯れる。

生息地: 主に隆起サンゴ礁や岩の上

分布: 関東～台湾。

その他: 畑雑草のトウダイグサや園芸品のポインセチアが近縁

16 ショウジョウソウ

初めに

双子葉

和名順

Euphorbia cyathophora (トウダイグサ科)



特徴: 花の周りに赤い包葉がある。ポインセチアの仲間。ちぎると白い汁が出る。

生息地: 海岸林、人家周辺

分布: 南アメリカ原産の観賞用に導入された帰化植物。国内の北限は奄美群島。

その他: ショウジョウは猩々という赤顔の架空の動物に由来し、赤いこと指す。



ポインセチアの鉢植え

17 イソマツ

初めに

双子葉

和名順

Limonium wrightii var. *arbusculum* (イソマツ科)



特徴: 高さ10cmほどの小さな多年草植物。夏に開花。古い株は黒い茎がみえて、マツのような形に見えるので“磯松”の名前がある。

生息地: 高潮時には海水に没するような海のすぐそばの隆起サンゴ礁の上に生育する。

分布: 伊豆諸島、小笠原、南西諸島の海岸。



花

C双子葉(キク科)

[はじめに戻る](#)

種名	形	主な特徴
18アツバ ジシバリ		花は黄色。葉は細く長さ約10cm。砂浜にある小さな草。
19ハマニガナ		花は黄色。葉は半円形で三つに切れ込む。砂浜にある小さな草。
20ホソバ ワダン		花は黄色。岩場や砂浜に生える。
21オオキダチ ハマグルマ		花は黄色。木にも登って生える大型のツル植物。
22ネコノシタ		花は黄色。砂浜に生える小さな草。葉の形が猫の舌のよう。
23アメリカ ハマグルマ		花は黄色。帰化植物。海岸や道端に生える。
24シマ アザミ		花は青色か白色。葉にトゲが多い。
25リュウキュ ウヨモギ		花は小さく目立たない。複葉だが葉が線のように細い。
26シロノ センダングサ		花は周りが白で中が黄色。羽状複葉。道端に非常に多い帰化植物。
27イソノギク		花は周りが白で中が黄色。稀
28モク ビャッコウ		葉が白い。多年草で茎が木質化している。隆起サンゴ礁に生育

18アツバジシバリ

初めに

キク科

和名順

Ixeris debilis var. *liukuensis* (キク科)



特徴: 砂浜に生える。ちぎると白い汁が出る。内陸部に生えるオオジシバリと似ており、区別が難しいが、より葉が厚い。

生息地: 砂浜前面～背後

分布: アツバジシバリは南西諸島固有種で奄美群島が北限。オオジシバリは、日本全土、中国、朝鮮に分布。

その他: ジシバリは茎が地表をおおい、地面を縛っているように見えることに由来。

19ハマニガナ

初めに

キク科

和名順

別名 ハマイチョウ *Ixeris repens* (キク科)



特徴: 砂浜に生える。ちぎると白い汁が出る。葉の形は半円形で、イチョウに似ているのでハマイチョウの別名があるが、3つに深く切れ込んでいる。

生息地: 砂浜前面

分布: カムチャツカ～インドシナ半島まで非常に広い範囲に分布するが、奄美より寒い地方に適しているようで、亜熱帯域には少ない。

20ホソバワダン

初めに

キク科

和名順

Crepidiastrum lanceolatum (キク科)



特徴: 花は秋～初冬に咲き小さい花が集まってつく。葉もかたまって生える多年草

生息地: 砂浜背後、崖

分布: 島根県～沖縄・中国。崖に多いが砂浜にも生育。ワダンは葉がもっと幅広く、関東・静岡県の海岸に生育。



長さ約10cmの葉で、縁に鋸歯にある葉とない葉がある



砂浜にも生えるが崖に群生することが多い。

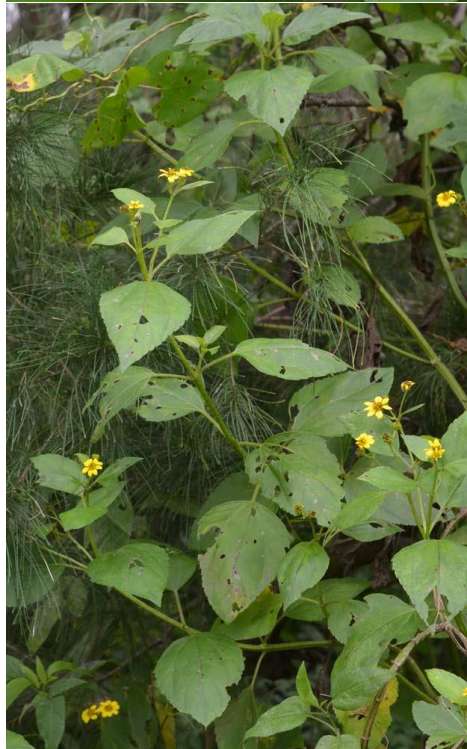
21オオキダチハマグルマ

初めに

キク科

和名順

Melanthera (旧 *Wedelia*) *biflora* var. *ryukyuensis* (キク科)



特徴: 葉は長さ10-15cmで表面がざらつき、対生する。ツル状に何mも伸びて、砂浜の上だけでなく樹木も覆うことがある大型の植物。花は主に夏に咲く。奄美に多い。

生息地: 砂浜背後～海岸林

分布: 母種のキダチハマグルマがミクロネシア～アフリカの熱帯・亜熱帯に分布し、本変種は九州南部～台湾に分布。

Melanthera (旧 *Wedelia*) *prostrata* (キク科) *prostrata*=地面をはうという意味



特徴: 葉の長さ3-5cmで厚くてざらつき、猫の舌の様というのでこの名がある。
砂浜に埋もれるようにして生育する小型の植物。

生息地: 砂浜前面

分布: 本州(関東・北陸以南)～ベトナムまで分布する。奄美では少ない。

Wedelia trilobata (キク科)

学名にtri(3つ) lobate(羽片)とあるように、浅く3つに裂けた葉が混ざる。

浅く3つに裂けた葉



特徴: オキダチハマグルマに似ているが、より小さく細い葉で、葉身長は5-10cm。

生息地: 海岸近くや人家周辺。

分布: 中央アメリカ原産の帰化植物。道端の緑化植物として導入され、インドネシアなどでも多く、世界の侵略的外来種ワースト100にも指定されている。

24シマアザミ

初めに

キク科

和名順

Cirsium brevicaule (キク科)



特徴: 棘(トゲ)が生えた長さ20-30cmの葉を持ち、海岸に生育する。春に紫か白色の花が咲く。

生息地: 砂浜背後

分布: 奄美群島～沖縄に分布。アザミ属は種類が多いが奄美で海岸に生育するアザミはこの1種だけ。

25 リュウキュウヨモギ

初めに

キク科

和名順

別名 ニイタカヨモギ *Artemisia morrisonensis* (キク科)



↑リュウキュウヨモギ
↓ヨモギの花



(南さつま市)

特徴: 砂丘の背後の砂地などに時々生える。一見クサスギカズラにも似ているが関係はなく、キク科のヨモギの仲間。ヨモギの葉は深く切れ込んでいるが、それが非常に細くなったもの。花の形もよく似ている。

生息地: 砂浜背後。

分布: トカラ列島(宝島)～沖縄・台湾



↑ヨモギ
←リュウキュウヨモギ

その他: 別名のニイタカヨモギは台湾の新高山(現在の玉山)にちなむ。

26シロノセンダングサ

初めに

キク科

和名順

タチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *radiata* (キク科)



特徴: 若い個体は単葉だが成長した個体では複葉になる。頭状花序の周辺は白く中央は黄色い。

生息地: 奄美では道端に非常に多い。海岸林周辺でもよく見かける

分布: 帰化植物で本州南部～熱帯。



果実: 服に付着しやすい

27 イソノギク

初めに

キク科

和名順

Aster asagrayi (キク科)



特徴: 葉は単葉。頭状花序の周囲の花弁はシロノセンダングサより数が多く細い。

生息地: 海岸近くの草地・岩場

分布: 奄美～沖縄

28モクビャッコウ

初めに

キク科

和名順

Crossostephium chinense (キク科)



特徴: 全体に白い毛でおおわれている。茎は木質化して硬く、高さ50cmほどまでになる。小さい個体は単葉、途中で羽状複葉、成熟するとまた単葉になる。

生息地: 砂浜にも稀に生育するが主に隆起サンゴ礁の岩の上

分布: トカラ列島～台湾



D単子葉の草1/2

[はじめに戻る](#)

イネ科

種名	形	主な特徴
29ツキイゲ		硬い茎を持ち砂浜を覆う。長いトゲの様な実はボールのように固まる。
30クロイワザサ		砂浜の上を這う小さな植物
31コウライシバ		砂浜や隆起サンゴ礁の隙間に生える芝。葉幅1-2mm。庭園の芝としても使われる。
32オニシバ		砂浜に生える芝。コウライシバより葉幅が広く5mm前後。
33ハマエノコロ		エノコログサの仲間で、砂浜に生える。エノコログサより穂が短い。
34ハナカモノハシ		砂浜背後や隆起サンゴの上に集団をつくる。1本に見える穂は2本が合体している。
35チガヤ		砂浜背後や畑脇によく生える。綿毛のような穂葉白い。
36ハチジョウススキ		ススキの仲間で海岸に生え、葉幅が広く、縁のギザギザが少ない
37ダンチク		海岸付近に生え、高さ2-3mに伸びる大型の草。

D単子葉の草2/2

[はじめに戻る](#)

イネ科以外

種名	形	主な特徴
38ヤブラン		海岸林に生え、葉幅1cm長さ30cmほどの多年草。実は濃い紫色。
39キキョウラン		砂浜付近に生え、葉幅2-3cm長さ30cmほどの多年草。
40オキナワチドリ		隆起サンゴ礁などに生え、高さ10cmほどのラン。春に開花。
41クサスギカズラ		隆起サンゴ礁に生える細い葉の植物。
42ハマユウ		海岸付近に生える大型の草。大きく長い葉が出る。
43テッポウユリ		海岸付近に生える大型の百合。

29 ツキイゲ

初めに

単子葉

和名順

Spinifex littoreus (イネ科)

地方名: ヒツキニギ



特徴: 葉は無毛だが少し白く、硬い。秋に熟す実は10-20cmの大きなボールのようになる。砂浜に大きな群落をつくることがある。

生息地: 砂浜

分布: 種子島～インドネシア。

30クロイワザサ

初めに

単子葉

和名順

Thuarea involuta (イネ科)



特徴: 笹と名前があるが、砂浜の上にはって生育する小さなイネ科。立ち上がって伸びることはない。

生息地: 砂浜前面

分布: トカラ列島を北限とし、台湾、中国などに分布

31コウライシバ

初めに

単子葉

和名順

Zoysia pacifica (イネ科)



5cm



花

特徴: 葉の幅が1-2mmの芝。芝生としてもよく利用されている芝

生息地: 砂浜だけでなく隆起サンゴ礁の上にもよく生える。

分布: 九州南部～台湾

32オニシバ

初めに

単子葉

和名順

Zoysia macrostachya (イネ科)



特徴: 葉の幅が5mm前後で、コウライシバより葉幅が広い。
葉が硬くて先端に触ると少し痛い。地上にはまっすぐに立っ
た茎だけで、地表を横に這う茎はない。

生息地: 砂浜前面

分布: 北海道～沖縄

33ハマエノコロ

初めに

単子葉

和名順

Setaria viridis var. *pachystachys* (イネ科)



串木野のエノコログサ



ハマエノコロの穂

特徴: 海岸に生えるエノコログサの仲間。内陸のエノコログサより穂が短い。葯が黄褐色でエノコログサは暗紫褐色。ただし内陸に向かってエノコログサと連続的に変化する。

生息地: 砂浜

分布: 北海道～台湾・中国

34 ハナカモノハシ

初めに

単子葉

和名順

Ischaemum aristatum var. *crassipes* (イネ科)



吹上浜のケカモノハシの穂
(右が自然状態
左は閉じた穂を開いた状態)

特徴:カモノハシは“鴨のクチバシ”の意味で、一本のように見える穂が、2本がくっついたもので、鳥のクチバシのように開くことができることからつけられた名前。

生息地:岩場のくぼみに生えたり、砂丘の背後に大きな集団を作ったりする。

分布:カモノハシは本州～インドシナまで分布する。

Imperata cylindrica (イネ科)



特徴: 春～初夏に白い穂を出す。高さは50cmほどまででススキより低く、地上にはほとんど葉だけで、長さ20-30cmになる。地上茎はあまり伸びない。地下茎は長く伸び、甘く食べられる。

生息地: 砂丘背後によく生える。畑にも多い雑草。

分布: 日本から熱帯まで広く分布し、熱帯では強害草。

36ハチジョウススキ

初めに

単子葉

和名順

Miscanthus condensatus (イネ科)



特徴: 海岸に生えるススキの仲間で、八丈島にちなんだ名前。内陸に生える普通のススキは葉幅が1-2cmだが、この種は2-3cmで幅広い。またススキは葉の縁にギザギザが多く、手を切りやすいが、ハチジョウススキはギザギザが少なく手を切ることがない。

生息地: 海岸付近に道端、草地

分布: 関東～フィリピン

その他: 内陸にやはりススキより大きくなるトキワススキがある。トキワススキは常緑で冬も枯れない、葉幅はハチジョウススキのように広いが葉の縁がギザギサ、花が7-8月と早く咲く。

37ダンチク

初めに

単子葉

和名順

Arundo donax (イネ科)



特徴: ハチジョウススキよりさらに大きくなるイネ科の草で高さ3mほどになる。ススキは葉が茎に沿うようにして出るが、ダンチクの葉は横に広がる。
生息地: 海岸近くの道端に多い。
分布: 関東～熱帯アジア



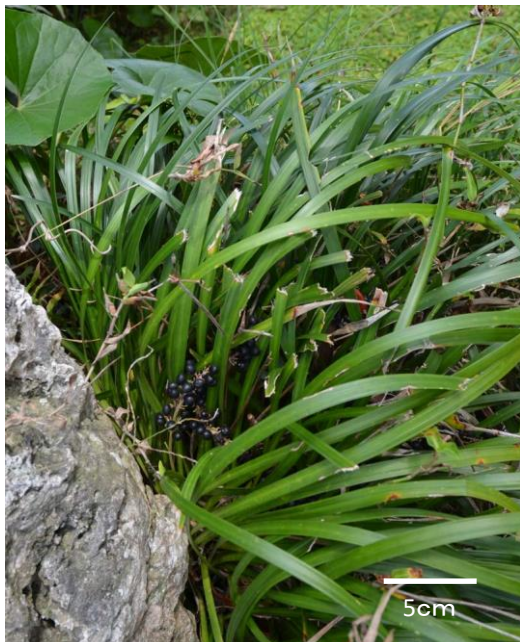
38ヤブラン

初めに

単子葉

和名順

Liriope muscari (ナギイカダ科 旧ユリ科)



特徴: 幅1-2cm長さ30cmほどの葉。夏に開花し、冬に黒紫の実をつける。

生息地: 海岸近くの林内などにある。

分布: 本州～台湾



その他: 葉が似たノシランは山地にあり、白い花で青い実をつける。



ノシラン *Ophiopogon jaburan*
(ナギイカダ科)の花と実

39キキョウラン

初めに

単子葉

和名順

Dianella ensifolia (ワスレグサ科 旧ユリ科)



特徴: ヤブランより葉幅が広い。
花期: 初夏

生息地: 砂浜背後や海岸林の
明るい場所に生える

分布: 本州(紀伊半島以南)～
熱帯



40オキナワチドリ

初めに

単子葉

和名順

Amitostigma lepidum (ラン科)



特徴: 高さ10cmほどのラン。花は早春

生息地: 隆起サンゴ礁の上や明るい道端

分布: 九州南部～沖縄



41クサスギカズラ

初めに

単子葉

和名順

Asparagus cochinchinensis (キジカクシ科 旧ユリ科)



特徴: ツル性の植物。
葉は退化して鱗片状になっており、細いが少し扁平になって葉のように見える部分も茎。野菜ノアスパラガスの仲間。琉球ヨモギに一見似ている。

生息地: 隆起サンゴ礁の上

分布: 本州～台湾

42ハマユウ

初めに

単子葉

和名順

Crinum asiaticum var. *japonicum* (ヒガンバナ科)



特徴: 花夏に咲く。大型の草本

生息地: 砂浜背後

分布: 九州南部～

43テッポウユリ

初めに

単子葉

和名順

Lilium longiflorum (ユリ科)



特徴: 花は春から初夏に咲く。大型のユリ

生息地: 隆起サンゴ礁の上、砂浜背後

分布: 三島村黒島～沖縄

その他: 数多くの園芸品種のもとになっている自生種

E砂浜・崖の低木

[はじめに戻る](#)

種名	形	主な特徴
44ハマゴウ		葉は長さ約5cmで楕円形。砂浜に埋もれて育つ高さ数十cmの低木
45イボタクサギ		砂丘の背後に生える半ツル性の低木。葉は対生で細長い。
46クサトベラ		砂浜や隆起サンゴ礁に生え、トベラに似た細長い無毛で光沢のある葉で、草のように柔らかい。
47モンパノキ		砂浜や隆起サンゴ礁に生え、葉の表面に白い毛が多く、葉が白っぽく見える。
48アダン		砂浜に多い単子葉植物。葉は長さ1mになる。
49テンノウメ		隆起サンゴ礁の上に生える低木。葉は羽状複葉。
50オキナワハイネズ		崖にへばりつくようにして生える針葉樹の低木。
51ソテツ		長さ1mほどの羽状複葉。崖に多いが砂浜にも少しある。畑の縁によく栽培。

44ハマゴウ

初めに

低木

和名順

Vitex rotundifolia (シソ科 旧クマツヅラ科)



花



種子



ミツバハマゴウ

特徴: 全縁で楕円形をした葉が対生する(学名の*rotundifolia*は丸い葉の意味)。葉は白い短毛が生えていて白っぽく見え、ちぎると臭いがある。砂浜に生え、樹木だが幹の大部分は砂に埋もれているので草のように見える。春から初夏に開花。

生息地: 砂浜

分布: 本州～熱帯～オーストラリア

45イボタクサギ

初めに

低木

和名順

Clerodendrum inerme (シソ科 旧クマツヅラ科)



特徴: 半ツル性の低木。葉は対生で細長い。[62アマクサギ](#)と同じ属で花はよく似ている。葉をちぎると臭いにおいがする。葉の形はイボタノキに似ている。

生息地: 砂浜背後～海岸林

分布: トカラ列島～オーストラリア



46クサトベラ

初めに

低木

和名順

Scaevola frutescens (クサトベラ科)

地方名: マラフクラ



特徴: トベラに似た細長い形の葉をしているが、葉は無毛で光沢があり、柔らかいので草トベラの名前がある。トベラの葉はちぎると臭いにおいがあるが、本種にはない。高さ1-2mの低木。

生息地: 砂浜や隆起サンゴ礁の上に多い。

分布: 宮崎県白浜～熱帯に広く分布。

47モンパノキ

初めに

低木

和名順

Heliotropium foertherianum (ムラサキ科)



特徴: 葉の長さ約20cmで裏表に白い毛が密生しており、全体に白っぽく見える。低木だが最大高さ5mほどになる。

生息地: 砂浜や隆起サンゴ礁の上

分布: トカラ列島の小宝島が北限で熱帯に広く分布



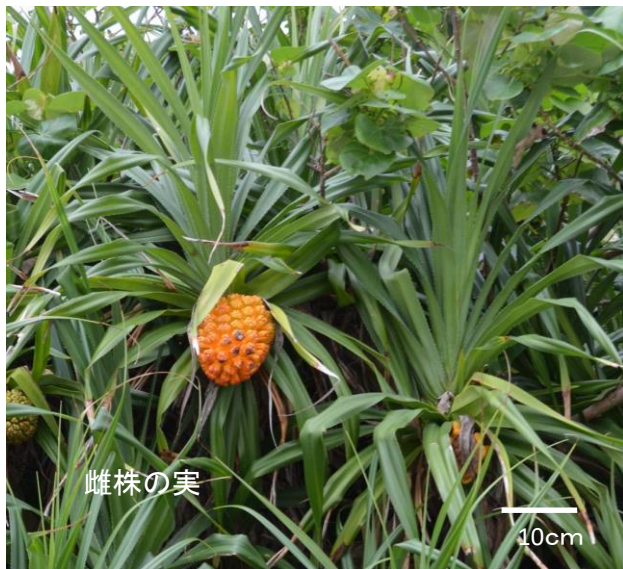
48アダン

初めに

低木

和名順

Pandanus odoratissimus (タコノキ科)



雌株の実

10cm



雄株(夏に開花)

特徴: 海岸に多い、樹木のように育つ
単子葉植物。葉の縁にトゲが多い。
雄と雌がある。

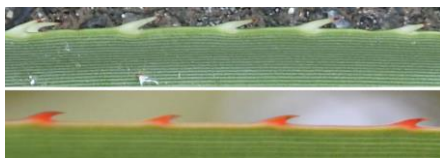
生息地: 砂浜背後

分布: 熱帯に広く分布しカラ列島の
口之島が北限。

アダンに近縁の栽培植物

ビョウタコノキ (*Pandanus utilis*) マ

ダガスカル島原産で、道端によく植えられている。
アダンより幹が太くまっすぐ伸びる。下図の
ように葉縁のトゲがアダンは白く、ビョウタコノ
キは赤い。



49テンノウメ

初めに

低木

和名順

Osteomeles anthyllidifolia var. *subrotunda* (バラ科)



特徴: 隆起サンゴ礁の上に
へばりつくようにして生える
高さ10-20cmの低木
5対ほどの小葉が集まって1
枚の羽状風況になっている。
盆栽としてよく栽培もされる。
生息地: 隆起サンゴ礁の上
分布: トカラ列島～熱帯

50オキナワハイネズ

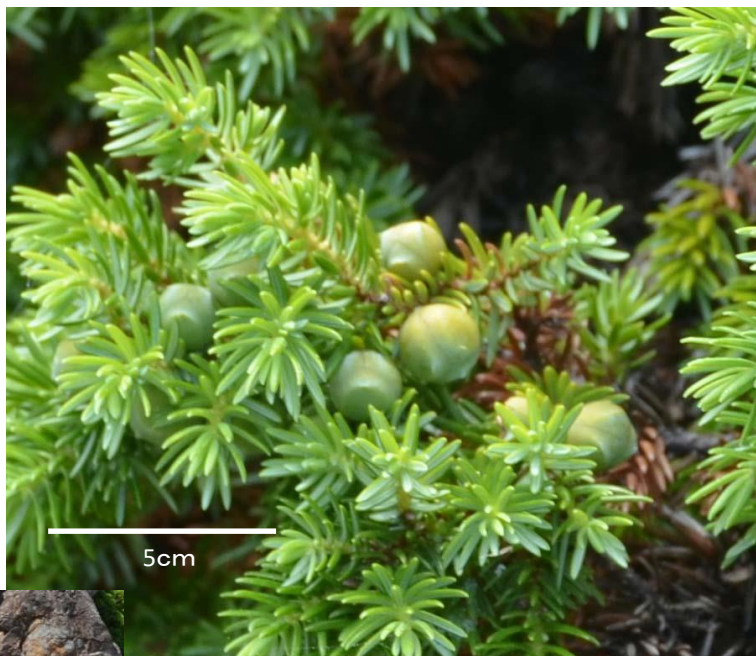
初めに

低木

和名順

Juniperus taxifolia var. *lutchuensis* (ヒノキ科)

地方名: イッシヨスギ、ハイスギ



特徴: 海岸の崖に這ったよう生育する針葉樹。大きくならず、植え込みなどにも利用される。実の大きさは約1cm

生息地: 海岸の崖、砂浜

分布: 関東～沖縄

Cycas revoluta (ソテツ科)



特徴: 長さ1mほどの羽状複葉になる。
生息地: 海岸の崖、砂浜、畑の脇にもよく植栽される。
分布: 九州南部～沖縄。中国？

F 木1(針葉・複葉・単葉対生)

	種名	形	主な特徴
針葉	52トクサバ モクマオウ		細い針葉のように見えるのは枝。海岸に多い
	53リュウキュウマツ		針のような細い葉 海岸や山に多い
三出複葉	54ショウベンノキ		三出複葉が対生に着く。葉の縁に鋸歯
	55アカギ		三出複葉が互生に着く。葉の縁に鋸歯
	56ギョボク		三出複葉が互生に着く。葉の縁は全縁
羽状複葉	57クロヨナ		丸い小葉が約5枚で複葉になる。砂浜の背後に生育
単葉・対生	58マサキ		長さ約5cmの葉が対生。海岸や人家周辺に多い。
	59台湾 ウオクスギ		長さ約20cmの丸い葉。稀に海岸に生育
	60アマクサギ		長さ約20cmの丸いが先が尖った葉。人家周辺に普通

52トクサバモクマオウ

Casuarina equisetifolia (モクマオウ科)

初めに

木1

和名順

針葉類似



特徴: 一見リュウキュウマツに似ているが、葉のように見える緑の部分は茎で、リング状に並び節を作っている毛のようなものが葉。高木になる。

生息地: 海岸林

分布: マレーシア～オーストラリア原産で
南西諸島、小笠原に帰化



53リュウキュウマツ

初めに

木1

和名順

針葉

Pinus luchuensis (マツ科)



特徴: 2本の葉を持つ点でクロマツに似ているが、クロマツの葉は硬く先端に手で触ると痛い、リュウキュウマツの葉は柔らかく痛くない。

生息地: 海岸や伐採された後の山地に多いが、最近では松くい虫の被害で激減した。

分布: トカラ列島の小宝島が北限で沖縄まで分布。
クロマツはトカラ列島悪石島～青森県に分布。

54ショウベンノキ

初めに

木1

和名順

Turpinia ternata (ミツバウツギ科)

地方名: ウギジャン

複葉



特徴: 三出複葉の葉が対生に出ている。葉の縁に鋸歯がある。

生息地: 海岸林～内陸の林

分布: 四国～台湾



その他: 和名は小便の木の意味で、春先に枝を切ると、樹液が多く出てくるため。



55アカギ

初めに

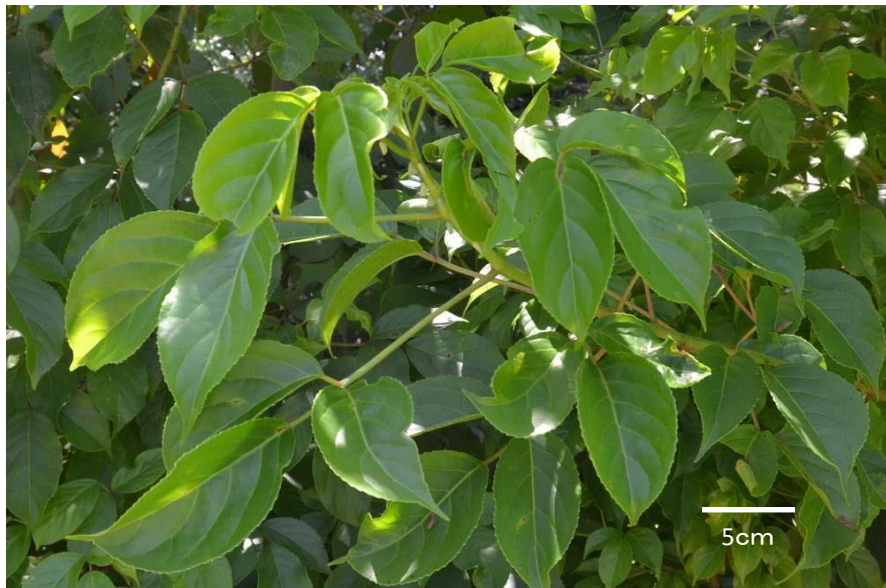
木1

和名順

Bischofia javanica (トウダイグサ科)

複葉

地方名: アカン



特徴: 三出複葉の葉が互生に出ている。葉の縁に鋸歯がある。

生息地: 人家近くの林、海岸林、公園(植栽)

分布: 奄美～熱帯。奄美では植栽されたものから野生化した。



幹が赤い



56ギョボク

初めに

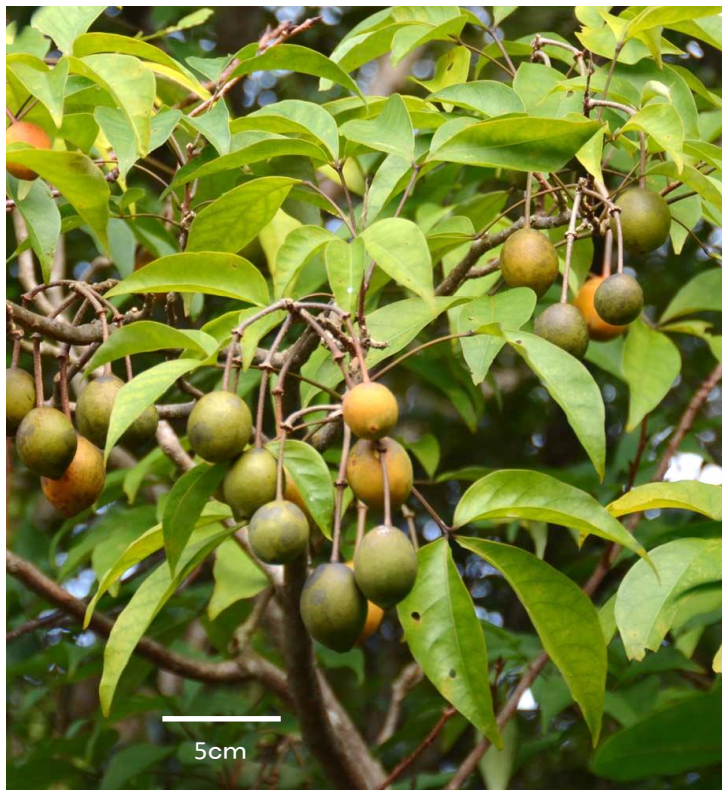
木1

和名順

Crateva religiosa (フウチョウソウ科)

複葉

地方名: アマキ



特徴: 三出複葉の葉が互生に出ている。
葉の縁に鋸歯がない。実は直径約3cm
花は春に咲き、園芸種のセイヨウフウチョウソウに似ている。

材が軽く魚型の疑似餌を作るのに使われたので「魚木」の名前がある。

生息地: 稀に海岸付近に自生。葉がツマベニチョウの餌になることもあり、公園に植えられていることが多い。

分布: 宮崎県～東南アジア、オーストラリア、アフリカ

57クロヨナ

Pongamia pinnata (マメ科)

初めに

木1

和名順

複葉



特徴: 羽片が約5枚の羽状複葉になる高木。

生息地: 砂浜背後、海岸林

分布: 屋久島からオーストラリアまでの海岸に分布。

58マサキ

初めに

木1

和名順

Euonymus japonicus (ニシキギ科)

単葉対生

地方名: タバクニンギ



特徴: 葉が対生し鋸歯がある低木。若い茎は緑色をしている。春に花が咲き、夏には緑色の身になり、冬には赤く熟す。

生息地: 海岸林、人家そばの林。生垣としてもよく植えられる。

分布: 北海道～沖縄・中国



薩摩川内市

59台湾ンウオクサギ

初めに

木1

和名順

単葉対生

Premna serratifolia

(シソ科 旧クマツヅラ科)



特徴: 葉が対生しほぼ無毛。似た葉を持つアマクサギの葉と比べると、光沢があり厚い。臭木の名前があるが、あまり臭くない。

生息地: 海岸林の林縁に時々生えている。

分布: 奄美群島～熱帯アジア

60アマクサギ(クサギ)

初めに

木1

和名順

単葉対生

Clerodendrum trichotomum var. *fargesii*
(シソ科 旧クマツヅラ科)





特徴: 葉が対生し毛が生え、光沢がなく薄い。全体の形が基部が広く三角形に近い形をしている(タイワンウオクサギは楕円形)。葉をちぎると臭いにおいがあるので臭木の名前がある。ただしアマクサギはあまり臭くない。

生息地: 海岸林や明るい林、道端に多い。

分布: クサギは北海道から沖縄まで生育し、アマクサギは其中で南部に分布し、葉にクサギの中では光沢があり花がまばらにつくものだが、中間的なものもある。

G 木2(単葉・互生)

[はじめに戻る](#)

	種名	形	主な特徴
細長い葉	61ハマヒサカキ		長さ約3cmの小葉で厚い低木
	62トベラ		長さ約10cm、葉裏に細かい網目状葉脈、鋸歯あり
	63シャリンバイ		長さ約10cm、葉裏に細かい網目状葉脈、鋸歯なし
	64ハマビワ		長さ約10-15cm。葉裏に薄茶色の毛が密生
	65アカテツ		長さ約10-15cm。ちぎると白い汁
	66ツゲモドキ		光沢のある葉、葉が平面的に広がる。稀
	67ウラジロエノキ		葉裏が白く、3主脈がある。
丸い葉	68ハマボウ		黄色いハイビスカスのような花。葉は小さい。
	69オオハマボウ		黄色いハイビスカスのような花。葉は大きい。
	70オオバギ		長さ約20cmの葉。道端に多い。
	71モモタマナ		長さ約30cmの葉。被陰樹として植栽。

61ハマヒサカキ

初めに

木2

和名順

単葉互生

Eurya emarginata (モッコク科 旧ツバキ科)



鹿児島市

特徴: 明るい環境では、葉が厚く、裏に反り返る。葉の縁には鋸歯があり、側脈が表面でくぼむ。雌雄異株の低木。山に生えているヒサカキの仲間。

生息地: 海のそばの潮風が直接当たるような場所に低木林を作る。潮風に強いので排気ガスにも強く、道路わきや生垣としてもよく植えられる。

分布: 本州(中南部)～沖縄



雄花



雌花と実

62トベラ

初めに

木2

和名順

Pittosporum tobira (トベラ科)

地方名: トブラギ

単葉互生



特徴: 葉が厚く、裏に反り返る。葉の裏に細かな網目状の脈がよく見える点で、次頁のシャリンバイに似ているが、トベラは鋸歯がなくて、ちぎると臭いが、シャリンバイは鋸歯があり、臭いが無い。冬に実が割れて赤い種子が出てくるが、ネバネバしている。より海の近くに生える[クサトベラ](#)は、葉の形は似ているが、トベラの葉が細脈が見えるのに対してクサトベラは見えない点や、トベラの葉の方が硬い点で区別ができる。

生息地: ハマヒサカキと同じような環境を好み、海のそばの潮風が直接当たるような場所に低木林や、海岸林の中に生育する。

分布: 本州(岩手県以南)～沖縄

63 シャリンバイ

初めに

木2

和名順

Rhaphiolepis indica var. *umbellata* (バラ科)

単葉互生

地方名: テーチ、テーチギ



特徴: 前のトベラに似ているが、小さくても鋸歯があること、トベラのように葉が反り返らないこと、臭いがないことで区別できる。低木だがトベラより大きくなる。

生息地: トベラと同じような環境を好み、海のそばの潮風が直接当たるような場所に低木林を作る。

分布: 本州(宮城県以南)～沖縄～ボルネオ

その他: 樹皮や根はタンニンを多く含み、大島紬の染料として使われる



64ハマビワ

初めに

木2

和名順

Litsea japonica (クスノキ科)

地方名: ショーチギ

単葉互生



特徴: 葉は長さ15cm前後で、裏が黄土色の毛でおおわれている。

生息地: 海岸林に多いが、土盛海岸では稀

分布: 本州(島根県以南)～沖縄

65アカテツ

初めに

木2

和名順

単葉互生

Planchonella obovata (アカテツ科)

地方名: チギイ、チョウチギイ



特徴: 葉は長さ10-15cm。低木が多いが高木にもなる。裏が極短い毛で覆われ黄土色に見えることが多いが毛が落ちて緑になることもある。ハマビワの葉の裏はいつも肉眼でわかる長さの毛で覆われている。枝を折ると白い汁が出る。

生育地: 海岸林。

分布: トカラ列島(宝島)・小笠原～熱帯アジア

その他: 小笠原で昔、鉄のように硬い木で樹皮が黒い本種をクロテツと呼び、樹皮が赤いアデクをアカテツと呼んでいたが、名前の取り違えが生じて、本種がアカテツになった。

66ツゲモドキ

初めに

木2

和名順

単葉互生

Putranjiva matsumurae

(ツゲモドキ科 旧トウダイグサ科)



特徴: 長さ10cmほどで光沢のある葉が互生で、葉が平面的に広がっている。(アカテツなどは葉がらせん状に配列し立体的になっている。)

生息地: 海岸林に生える樹木だが稀。

分布: 屋久島～沖縄。この属は熱帯林の中に多い。

67ウラジロエノキ

初めに

木2

和名順

単葉互生

Trema orientalis

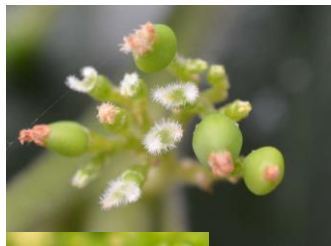
(アサ科 旧ニレ)



特徴: 長さ10-15cmの葉が互生で、葉が平面的に広がっている。基部から出ている側脈が長く伸びる(3主脈になっている)。葉裏に白い毛が多く、エノキに似た形の葉なのでウラジロエノキの名前がある。性は複雑で雌株、雄株、混性株がある。

生息地: 海岸林～山地までの明るい林に普通。

分布: 種子島～熱帯。



↑雌花



←雄花

68ハマボウ

初めに

木2

和名順

Hibiscus hamabo (アオイ科)

単葉互生



特徴: ハイビスカスの仲間、オオハマボウに花はよく似た黄色い花をつける。葉は長さ10cmほど。また葉の付け根は浅くくぼむだけ。

生息地: マングローブ林の背後に生育し、砂浜にはない。

分布: 関東南部～奄美(沖縄にはない)

69オオハマボウ

Hibiscus tiliaceus (アオイ科)

初めに

木2

和名順

単葉互生



特徴: ハイビスカスの仲間
で、ハマボウに花はよく似
た黄色い花をつける。葉
は長さ15-20cmほどで大き
い。また葉の付け根は深く
くぼむ。

生息地: 砂浜の背後に生
育し、栽培もされ、

分布: 種子島～熱帯。奄
美にも多い。

その他: 同じくアオイ科の
サキシマハマボウ
(*Thespesia populnea*)とい
う種が稀に自生し、時に
栽培されている。オオハ
マボウより長いハート形
の葉。花の色は淡黄色か
らピンクに変化する。



70オオバギ

初めに

木2

和名順

Macaranga tanarius (トウダイグサ科)

単葉互生



オス



メス

特徴: 長さ20-30cmの丸い葉をつける。葉柄が葉の縁でなく葉身の中央近くで付着している。雌雄異株。

生息地: 海岸に限らず低地によく見られる。

分布: 奄美群島～熱帯

71モモタマナ(コバテイシ)

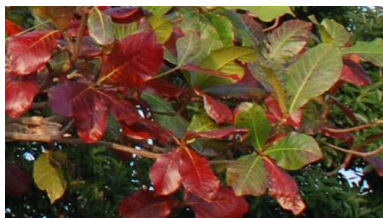
Terminalia catappa (シクンシ科)

初めに

木2

和名順

単葉互生



特徴: 長さ20-30cmの大型の葉を持ち、枝が横に広がるので、被陰樹としてもよく植えられる。大型の樹木で、板根も発達する。長さ5cmほどの実ができ、海流で散布される。

生息地: 海岸に生育する樹木だが、奄美大島で見られる木のほとんどが植えたもの。

分布: 奄美群島～熱帯



花 Padang

H マングローブ林の木

種名	形	主な特徴
72メヒルギ		潮間帯に生える。葉先が丸い。花は白色。根元だけ気根が出る。
73オヒルギ		潮間帯に生える。葉先が尖る。花は赤色。幹から離れた所にも膝を曲げた形の気根がでる。
74サキシマス オウノキ		マングローブ林の背後の背後に生える。葉裏は星状毛でおおわれてクス茶色。大きくなると気根が発達。
75ミフクラギ		長さ約20cmの葉が出る。ちぎると白い汁が出る。花は白い。街路樹にもよく植えられる。

72メヒルギ

初めに

マングローブ

和名順

Kandelia obovata (ヒルギ科)



特徴: オヒルギと比べると葉の先端が丸い。花は白い。

生息地: 砂泥が溜まる潮間帯

分布: 鹿児島市喜入~熱帯
奄美ではオヒルギより多いが、熱帯では少ない。



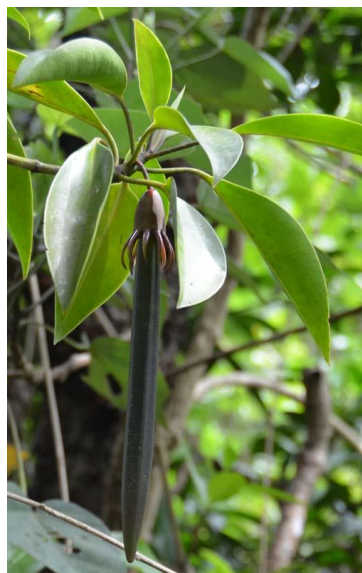
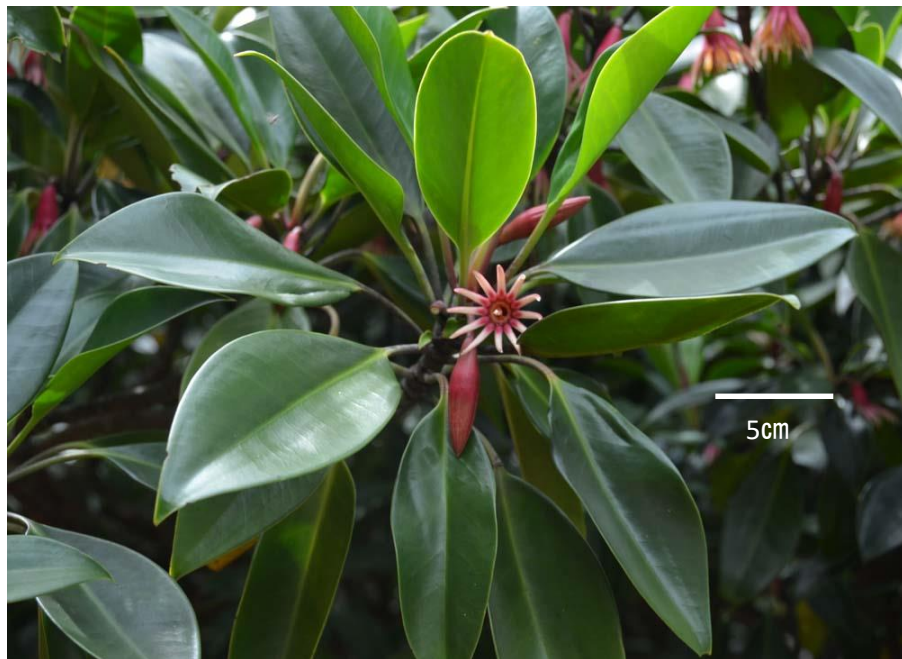
73オヒルギ

初めに

マングローブ

和名順

別名アカバナヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* (ヒルギ科)



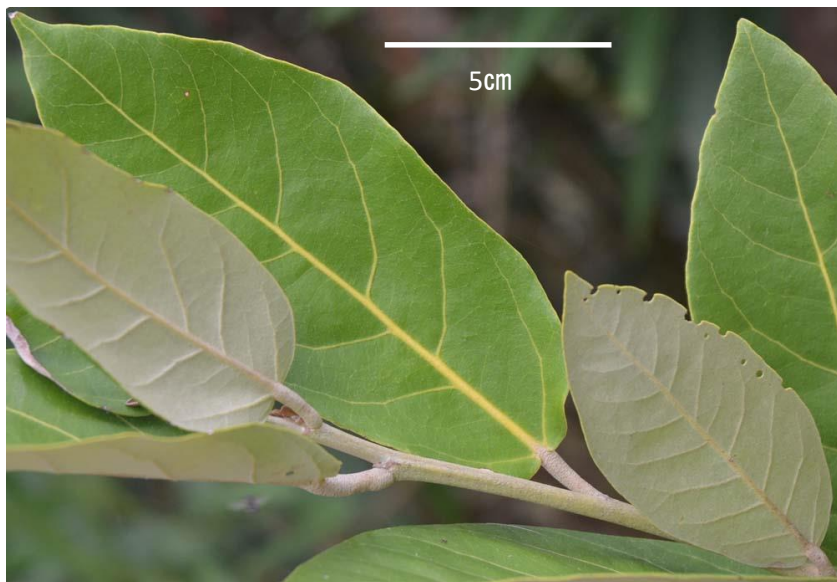
特徴: メヒルギと比べると
葉の先端がとがっている。
花は赤い。

生息地: 砂泥が溜まる潮
間帯

分布: 奄美~熱帯



Heritiera littoralis (アオイ科 旧アオギリ科)



特徴: 葉の裏が星状毛でおおわれて茶色い。大きくなると板根が発達する。実は長さ5cmほどあり、海流で散布される。

生息地: マングローブ林の背後の湿地林に多い。

分布: 奄美~熱帯

75ミフクラギ

初めに

マングローブ

和名順

Cerbera manghas (キョウチクトウ科) *manghas*=“マングローブの”の意味



特徴: 花はキョウチクトウに似ている。枝や葉をちぎると白い汁が出る。実は長さ約5cmで海流で散布される。

生息地: マングローブ林の背後などに自然状態では生えるが、花がきれいなので街路樹としてもよく植えられている。

分布: 奄美~熱帯



和名順1

	和名	科名	番号	学名
1	アカギ	ミカンソウ	55	<i>Bischofia javanica</i>
2	アカテツ	アカテツ	65	<i>Planchonella obovata</i>
3	アダン	タコノキ	48	<i>Pandanus odoratissimus</i>
4	アツバジシバリ	キク	18	<i>Ixeris japonica</i>
5	アマクサギ	シソ	60	<i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>fargesii</i>
6	アメリカネナシカズラ	ヒルガオ	4	<i>Cuscuta campestris</i>
7	アメリカハマグルマ	キク	23	<i>Wedelia trilobata</i>
8	イソノギク	キク	27	<i>Aster asagrayi</i>
9	イソマツ	イソマツ	17	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>arbusculum</i>
10	イボタクサギ	シソ	45	<i>Clerodendrum inerme</i>
11	イワタイゲキ	トウダイグサ	15	<i>Euphorbia jokinii</i>
12	ウラジロエノキ	アサ	67	<i>Trema orientalis</i>
13	オオキダチハマグルマ	キク	21	<i>Melanthera biflora</i> var. <i>ryukyuensis</i>
14	オオバギ	トウダイグサ	70	<i>Macaranga tanarius</i>
15	オオハマボウ	アオイ	69	<i>Hibiscus tiliaceus</i>
16	オキナワチドリ	ラン	40	<i>Amitostigma lepidum</i>
17	オキナワハイネズ	ヒノキ	50	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>lutchuensis</i>
18	オニシバ	イネ	32	<i>Zoysia macrostachya</i>
19	オヒルギ	ヒルギ	73	<i>Bruguiera gymnorhiza</i>
20	カワラアカザ	ヒユ	13	<i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>
21	キキョウラン	ワスレグサ	39	<i>Dianella ensifolia</i>
22	ギョボク	フウチョウボク	56	<i>Crateva formosensis</i>
23	クサスギカズラ	キジカクシ	41	<i>Asparagus cochinchinensis</i>
24	クサトベラ	クサトベラ	46	<i>Scaevola taccada</i>
25	クロイワザサ	イネ	30	<i>Thuarea involuta</i>

和名順2

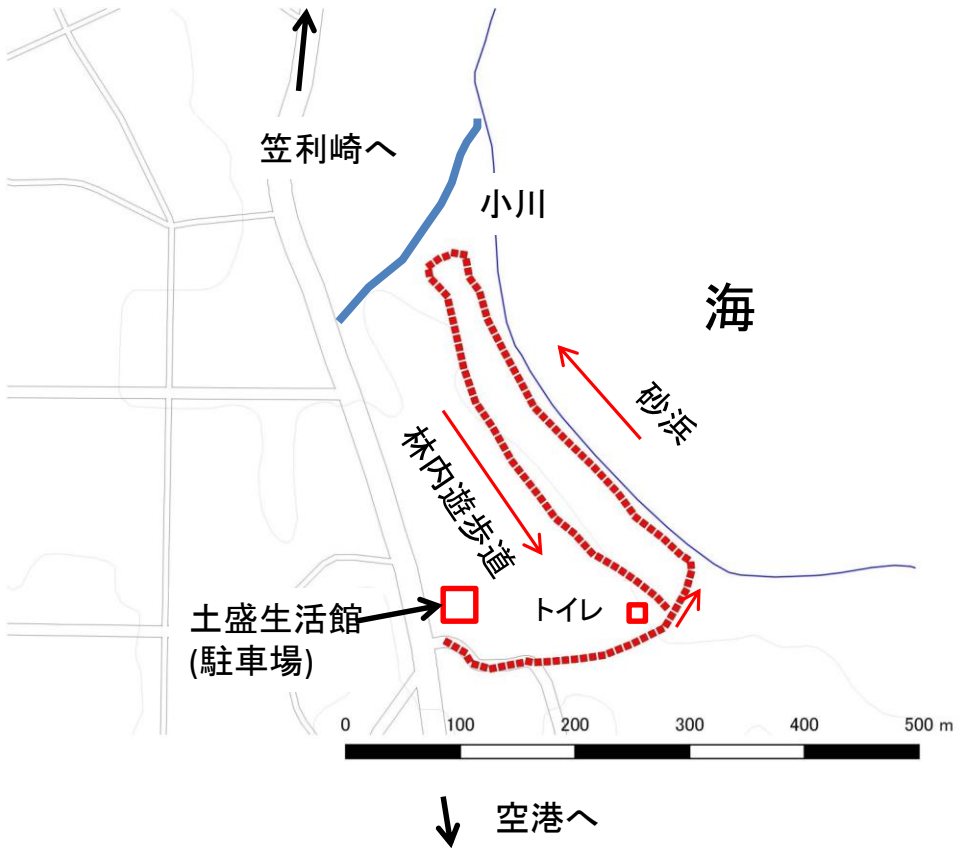
	和名	科名	番号	学名
26	クロヨナ	マメ	57	<i>Millettia pinnata</i>
27	グンバイヒルガオ	ヒルガオ	1	<i>Ipomoea pes-caprae</i>
28	コウライシバ	イネ	31	<i>Zoysia pacifica</i>
29	コマツヨイグサ	アカバナ	9	<i>Oenothera laciniata</i>
30	サキシマスオウノキ	アオイ	74	<i>Heritiera littoralis</i>
31	シマアザミ	キク	24	<i>Cirsium brevicaulis</i>
32	シャリンバイ	バラ	63	<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>umbellata</i>
33	ショウジョウソウ	トウダイグサ	16	<i>Euphorbia cyathophora</i>
34	ショウベンノキ	ミツバウツギ	54	<i>Turpinia ternata</i>
35	シロノセンダングサ	キク	26	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>
36	シロバナミヤコグサ	マメ	7	<i>Lotus australis</i>
37	スナヅル	クスノキ	3	<i>Cassytha filiformis</i>
38	ソテツ	ソテツ	51	<i>Cycas revoluta</i>
39	タイワンウオクサギ	シソ	59	<i>Premna serratifolia</i>
40	ダンチク	イネ	37	<i>Arundo donax</i>
41	チガヤ	イネ	35	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>
42	ツキイゲ	イネ	29	<i>Spinifex littoreus</i>
43	ツゲモドキ	ツゲモドキ	66	<i>Putranjiva matsumurae</i>
44	ツルナ	ツルナ	12	<i>Tetragonia tetragonoides</i>
45	テッポウユリ	ユリ	43	<i>Lilium longiflorum</i>
46	テンノウメ	バラ	49	<i>Osteomeles anthyllidifolia</i> var. <i>subrotunda</i>
47	トクサバモクマオウ	モクマオウ	52	<i>Casuarina equisetifolia</i>
48	トベラ	トベラ	62	<i>Pittosporum tobira</i>
49	ナンゴクボタンボウフウ	セリ	10	<i>Peucedanum japonicum</i> var. <i>australe</i>
50	ネコノシタ	キク	22	<i>Melanthera prostrata</i>

和名順3

	和名	科名	番号	学名
51	ハチジョウススキ	イネ	36	<i>Miscanthus condensatus</i>
52	ハナカモノハシ	イネ	34	<i>Ischaemum aureum</i>
53	ハマアズキ	マメ	5	<i>Vigna marina</i>
54	ハマウド	セリ	11	<i>Angelica japonica</i>
55	ハマエノコロ	イネ	33	<i>Setaria viridis</i> var. <i>pachystachys</i>
56	ハマゴウ	シソ	44	<i>Vitex rotundifolia</i>
57	ハマタイゲキ	トウダイグサ	14	<i>Euphorbia atoto</i>
58	ハマナタマメ	マメ	6	<i>Canavalia lineata</i>
59	ハマニガナ	キク	19	<i>Ixeris repens</i>
60	ハマヒサカキ	モッコク	61	<i>Eurya emarginata</i>
61	ハマヒルガオ	ヒルガオ	2	<i>Calystegia soldanella</i>
62	ハマビワ	クスノキ	64	<i>Litsea japonica</i>
63	ハマボウ	アオイ	68	<i>Hibiscus hamabo</i>
64	ハマユウ	ヒガンバナ	42	<i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i>
65	ホソバワダン	キク	20	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>
66	マサキ	ニシキギ	58	<i>Euonymus japonicus</i>
67	ミツバノコマツナギ	マメ	8	<i>Indigofera trifoliata</i>
68	ミフクラギ	キョウチクトウ	75	<i>Cerbera manghas</i>
69	メヒルギ	ヒルギ	72	<i>Kandelia obovata</i>
70	モクビャッコウ	キク	28	<i>Crossostephium chinense</i>
71	モモタマナ	シクンシ	71	<i>Terminalia catappa</i>
72	モンパノキ	ムラサキ	47	<i>Heliotropium foertherianum</i>
73	ヤブラン	ナギイカダ	38	<i>Liriope muscari</i>
74	リュウキュウマツ	マツ	53	<i>Pinus luchuensis</i>
75	リュウキュウヨモギ	キク	25	<i>Artemisia morrisonensis</i>

土盛海岸植物観察会ルート

2017年8月27日



あとがき

この図鑑は平成29年度鹿児島大学運営交付金「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」により、第6回 奄美の生物多様性観察会のために作成されました(その後2種追加)。すべて鈴木英治が撮影しましたが、場所の説明がない写真は、奄美群島内で撮られたものです。この図鑑は個人的に使われる場合自由にコピーしてください。ただし写真の所有権は鈴木英治にあります。写真だけ取り出して他の用途に使われる時などにはご連絡ください。

参考図書

初島住彦.(2004) 九州植物目録 鹿児島大学総合研究博物館
堀田満.(2013) 奄美群島植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館.
片野田逸朗.(1999) 琉球弧野山の花from AMAMI. 南方新社
長田武正.(1993) 増補 日本イネ科植物図譜. 平凡社.
佐竹義輔他編.(1989) 日本の野生植物 木本 I 及び II. 平凡社.
佐竹義輔他編.(1981-1982) 日本の野生植物 草本 I, II, III. 平凡社.
大川智史・林将之.(2016) 琉球の樹木. 文一総合出版

また、鹿児島大学総合研究博物館の植物標本データベースも参照した。

http://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/item_j.html

学名は基本的に、「植物和名一学名インデックス YList」に従った。
科名は分子系統によるAPG体系の科名を使い、旧Engler体系を旧科名として示した。

2017年9月 鈴木英治



土盛海岸 奄美大島